

## ■道徳科の目標

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

## ■道徳科の特質に応じた見方・考え方

様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考えること。

## ■高知県が目指す授業づくりのコンセプト

### ○道徳科における「学びを変える」授業づくりとは

道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を養うことであり、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を養うようにすることです。そのためには、道徳科の目標を十分に理解して、教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないように特に留意することが大切です。

### ○道徳科における「学びをつなげる」授業づくりとは

これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、多様な感じ方や考え方に接する中で、更に考えを深めていくことです。そのためには、他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体を目的とせず、「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考え、道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深める学習などが大切です。

### ○道徳科における「学びを高める」授業づくりとは

答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」の実現です。そのためには、問題意識をもつこと、自分との関わりで捉えて考えること、多面的・多角的に考えること、自らを振り返ること、自己の生き方についての考えを深めることがポイントです。

## ■道徳科の特質に応じて、効果的な学習展開ができるように配慮すべき内容

### ○道徳科における児童の主体的な学習

道徳科の授業では、教師が特定の価値観を児童に押し付けたり、児童が指示通りに主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、目指す方向の対極にあるものです。児童が道徳的価値を自分との関わりで捉え、自らの将来に進んで生かそうとする姿勢をもてるような主体的な学習にすることが求められています。

### ○道徳科に生かす言語活動

道徳的価値の理解に基づいて自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める観点から話し合う活動や書く活動など一人一人の感じ方や考え方を表現する機会を充実し、自らの道徳的な成長を実感できるようにすることが大切です。

### ○問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

児童の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫することが重要です。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすることが大切です。また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすことも必要です。

三つの柱の資質・能力

資質・能力を身に付けるための道徳科の学習活動例

学びに向かう力、人間性等

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めようとする態度。

知識及び技能

道徳的諸価値について理解すること。

思考力、判断力、表現力等

物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めること。

自己を見つめるとは

自分との関わり、つまりこれまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めること。

多面的・多角的に考えるとは

物事を一面的に捉えるのではなく、道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解すること。

道徳性を養うために行う道徳科における学習 道徳教育・道徳科で育てることを目指す資質・能力



道徳的諸価値とは

よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるもの。

自己の生き方についての考えを深めるとは

道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを確かに想起したりすること。

《個々の児童の状況に応じた配慮》

- ◇考えをもつことが苦手な児童  
ノートに自分の考えをまとめさせる。感じたこと、思ったことを自由に書くのが難しい児童には、「〇〇について」や「このときの気持ちについて」とポイントを絞った言葉がけをする。
- ◇人前で発言することが苦手な児童  
考えを書いたノートを基に発言させる。ペア→小グループ→全体と関わる人数を少しずつ増やしていく。

《他の教育活動等との関連》

- 【特別活動】  
・学級活動（2）よりよい人間関係の形成  
・学校行事 運動会

【主題名】相手のための親切（親切・思いやり） 【教材名】「やさしいユウちゃん」（日本文教出版）

【ねらい】相手のためを考え、ときには言いにくいことも言うユウコの姿から、友達を信じて見守り、手を貸さないことも本当の優しさであることに気づき、相手の立場に立ち、進んで親切にしようとする心情を育てる。

教材の概要

活発で明るいユウコと、おとなしく真面目なハルカは幼なじみ。性格が違う二人は仲良しで、いつも一緒に過ごしていました。委員会のメンバー決めで、いつもはすぐに決められないハルカが、自分から大好きな動物の世話ができる飼育委員を希望します。ハルカに頼まれて一緒に希望したユウコですが、定員より一人多くなってしまいます。「一緒じゃないなら、別の委員会と一緒にいこうよ。」というハルカに、ユウコは「本当にそれでいいのかな？」と悩み、「私は別の委員会に行くね。ハルカはやりたいことをちゃんとやった方がいいよ。」ときっぱり話しました。

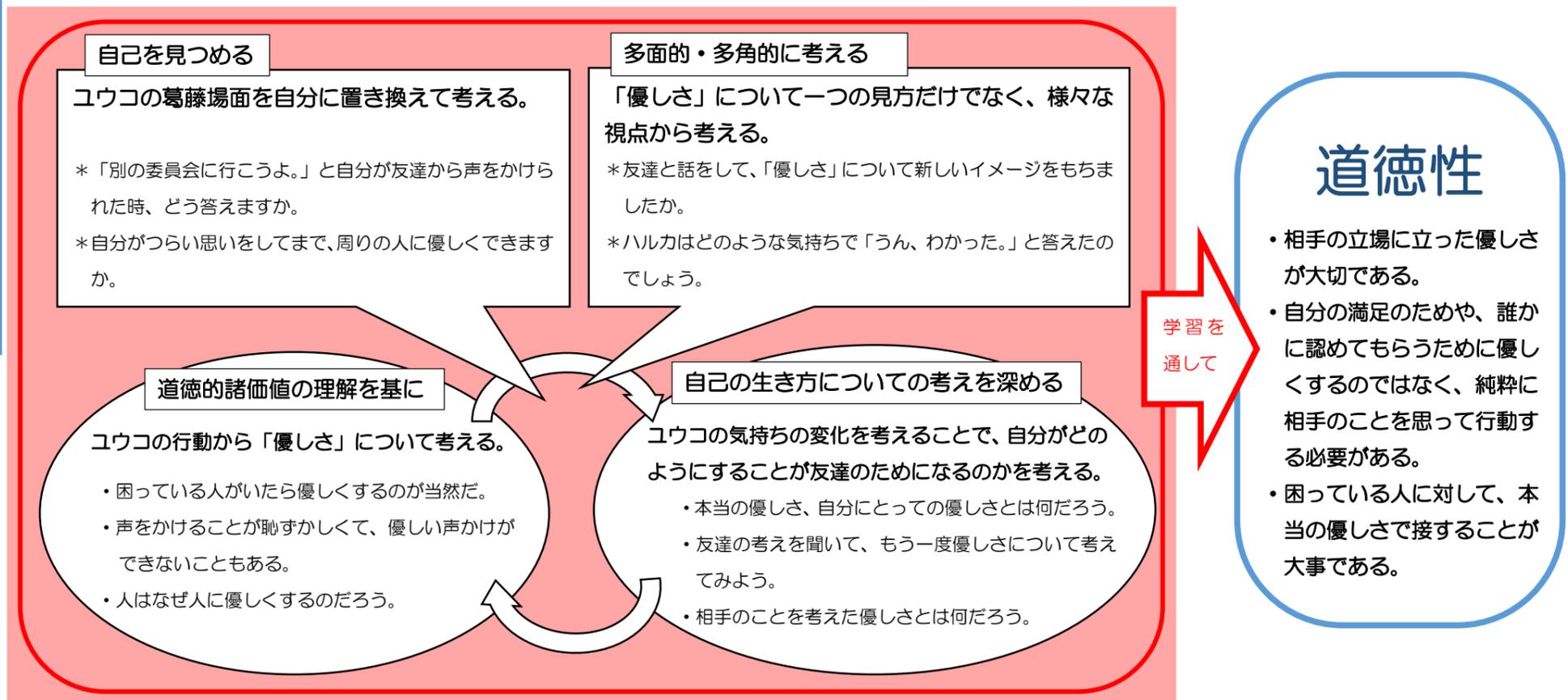
見方・考え方を働かせる子供の姿の例

- ・「ユウコは優しい」という考えと、「ユウコは優しくない」という考えの議論を通して、「優しさ」について一つの見方ではなく様々な視点から多面的・多角的に捉えようとしている姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- ・ユウコは「優しい」「優しくない」のどちらに共感するかネームカードで意思表示させ、なぜそのように考えたのかの根拠を明らかにすることで、自分自身との関わりで考えることができるようにする。
- ・道徳的価値について考えを深めることができるように、「心で思っているだけで、優しさは伝わるの？」や「相手のことを思って優しくしていることが伝わらなくてもいいの？」と問い返していく。
- ・ペアやグループでの話し合いの時間をとり、考えたことを伝え合わせることで、自分と違った考えを知ったり、友達の考えから新たな考えをもてたりできるようにする。

道徳性を養うために行う道徳科における学習



	低学年	中学年	高学年	中学校
内容項目	身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。
指導の要点	身近にいる人々に親切にすることの大切さについて考えを深められるようにしたり、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れ、具体的に親切な行為ができるようにしたりする。	相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるようにする。	自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるのかを考えたり、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、児童が接する全ての人に思いやりの心をもてるようにしたりする。	◆自分も他者も、共にかけがえのない存在であるということに自覚できるようにする。 ◆互いに支え合う経験を積みながら、人間として生きる喜びや思いやりと感謝の心と態度を育むようにする。